



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(100) エボシクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(100) エボシクラゲ. 紀伊民報 2013

ISSUE DATE:

2013-07-03

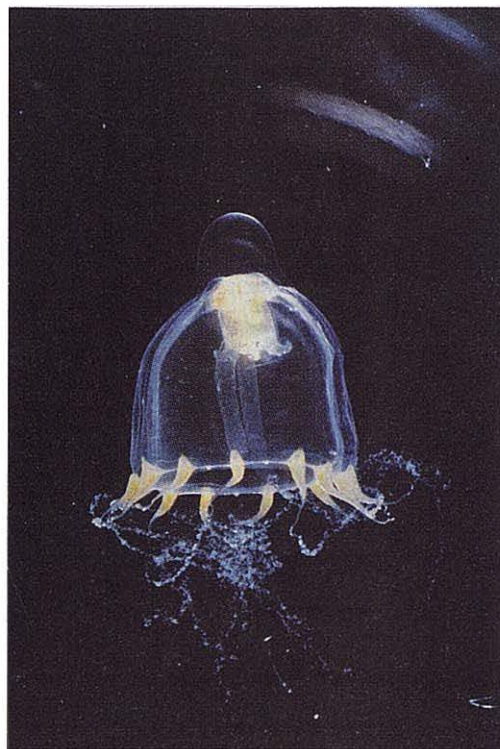
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180220>

RIGHT:

© 紀伊民報社

エボシクラゲ



△ ポリプを実験室で飼育し、遊離させた未成熟なエボシクラゲ

久保田 信

100



エボシクラゲは名前の通り、烏帽子型をしたクラゲである。そのゼラチン質の円すい状突起の機能はまだよく分かっていない。

クラゲの進行方向の先に装備されているので、ひよっと

エボシクラゲは名前の通り、烏帽子型をしたクラゲである。そのゼラチン質の円すい状突起の機能はまだよく分かっていない。

したら新幹線の先端部のように、摩擦抵抗を少なくするのに何らかの貢献をしているのかもしれない。

エボシクラゲはヒドロクラゲの仲間では比較的大型種で、傘高は10ミリ余りに達する。傘縁触手は最多で32本ある。おのおの触手瘤(りゅう)の外側に1個の眼点を備えるので、光の明暗を感じることができ、画像はよく成長した個体で、ポリプを飼育し、それから遊離した小さな未成熟クラゲを実験室で飼育したものである。まだ完全には成熟していない。このようにク

ラグの飼育は研究する上で大切に種類を決めるのに最も有効である。

本種は北海道以南の太平洋沿岸に分布する。世界的には太平洋とインド洋、大西洋、地中海に広く分布する。ポリプは群体性で、よく分岐するヒドロ茎上にクラゲ芽を1個ずつ形成する。

(京都大学准教授)